

起業の鉄則研究会(リーダー: 小林宏至常任理事)

平成 24 年 12 月 8 日(土)15 時から甲南アセット大開ビル別館 7 階会議室にて講師ともで 18 名が参加し、本年度第 8 回目(7 月は都合により休会)の起業の鉄則研究会が開催された。

今回は人を中心としたテーマで質疑応答も活発に行われた。

◆第 1 部「経営者としての労働問題

～最近の特徴的な動向から」

講師: MBA パートナーズ社労士事務所 代表: 清水 雅樹 氏

・プレゼンテーション(学)ーアメリカ領事館での話から、かの国では自己紹介は最後に行われるとか。話は何分も続けるのではなく適度の緊張感をもって進めるべきもの。

経営学は経営内部資源と外部環境をつなぐものである。

ハーバードの Clayton M.Christensen によるイノベーションのジレンマ(技術革新が巨大企業を減ぼす時)の紹介と持続的イノベーションと破壊的イノベーションについて――

- ・MBAーMaster of Business Administration(経営学修士)を取るにあたり関学・三田俊平太先生と出会う。破壊的イノベーション(経済成長の源泉)に興味を持つ。
- ・特定社会保険労務士ー社労士の業務に加えて労働紛争の未然に防ぐなどの業務が加わる。
- ・日本の労働法特に整理解雇の 4 要件ー①人員整理の必要性、②解雇回避努力義務の履行、③被解雇者選定の合理性、④手続きの妥当性について
- ・メンタルヘルス疾患をめぐる問題、並びに関連する判例・事例の紹介がさらっと行われた。

◆第 2 部「「プレゼンテーション」という切り口のビジネス

～ソーシャルネットワークの時代だからこそできる起業スタイル」

講師: ㈱Smart Presen 代表取締役: 新名 史典 氏

- ・製品等のハイエンドとローエンドに携わって来、ベンチャーに興味を持った。
- ・プレゼンは誰が言うかが重要で、欧米人に比べ日本人にはプレゼンの嫌いな人が多く、話し手と聞き手のミスマッチが多い。
- ・聞きたくない話として、①自慢話、②他人の悪口や愚痴、③特に興味のない話があげられる。
- ・従って、プレゼンは相手が聞きたいものを提供することにあり、双方向的であるが、主役は聴き手側である。
- ・陥りやすい落とし穴として、①使う言葉は皆が知っていると思ってしまうこと、②沈黙は怖いが一寸した間は大切、③提供側の情報は多いほうがよいが伝え方はシンプル・イズ・ベスト
- ・資料と説明のバランスが大切であり、話のうまさとは流暢さは異なる。
- ・フェイスブックなどのソーシャルメディアの活用
- ・総括として、人の心を読む努力が求められていると読み取れた一面がみられた。

終了後近くの料理屋「雄司」において、10 名が参加し恒例の食事会+忘年会と歓談の一時がもたれた。

来月は 1 月 12 日(土)。15 時から甲南アセット大開ビルの別館 5 階会議室にて開催を予定しておりますが詳細は後日ご連絡いたします。